

土居昌弘の大分県議会議員活動報告

羽ばたき

平成31年新春
第21号

民主主義の挑戦!! 輝き合う社会を求めて

編集：大分県議会自由民主党

発行：大分県議会自由民主党

土居昌弘連絡事務所 〒878-0005 竹田市挾田670番地

TEL 0974-62-4848 FAX 0974-63-0124

土居昌弘公式ホームページ
<http://doi-masahiro.net/>



尊いいのちと財産を奪う玉来川の氾濫。市民の安心安全を守る玉来ダム建設も、本体コンクリート打設に入りました。2020年度に治水効果が発現できるよう工事を急ぎます。



1月19日に竹田 ICまで開通。これから阿蘇までの事業を早く起こさなければなりません。市民の願いを一つにして、声を上げていきましょう。

今を活かして、 飛躍しよう



昨年11月末に、大分県で開催されました国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭が閉幕。「おおいた大茶会」をテーマに、「県民総参加」「新しい出会い、新しい発見」「地域をつくり、人を育てる」の3つのコンセプトのもと、県内全地域で魅力ある文化事業が繰り広げられました。

ここ竹田市でもオープンしたばかりのグラ
ンツたけたを中心に、数多くの事業が注目を集め、それぞれの地域や各会場が大いに賑わったところです。
音楽、演劇、伝統芸能に伝統文化など、魅力を持った竹田市を発信することに成功し、各々の事業を通じて人々の心に多大な影響を与え、「感動しました。私の価値観が広がりました」といううれしい言葉も耳にしました。

これから大事なことは、今回の文化祭で育んだものを、大きく花開かせ、将来につなげていくことです。
また、このような恵まれた環境が、竹田市には整いつつあります。本体工事に入った玉来ダムや、完成が近づいた大蘇ダム、そして1月19日には中九州横断道路朝地竹田間が開通。竹田市に関する大型の公共事業は、着実に進捗しています。さらに、農業基盤や道路網の整備なども進んできていますし、春には念願の久住高原農業高校も開校します。問題は、これらの環境をこれからどう活かしていくかです。現状の暮らしからステップアップできるチャンスが、今、ここにあるのです。
これを活かさなければ、竹田市の発展はありえません。多くの皆様のお知恵を借りながら地域づくりの方針を立て、皆様の力を合わせ、心も合わせて動く時です。私自身もそのことを肝に銘じ、さらに力強く活動していく所存でありますので、今後とも宜しくお願ひします。

大分県議会 平成30年 第4回定例会 土居昌弘一般質問



11月26日に開会しました第4回定例会は、12月12日に閉会。12月5日には土居議員が一般質問に登壇して、県政に提言をしました。また、土居議員が一般質問するのは、今回が今期最後となる見込みでしたので、土居議員が会長を務めます大分県福祉保健環境対策調査会が調査してきた内容も提案。前向きな答弁をいただいたケースと、問答が噛み合わないケースと半々でしたが、成果も出しながら、積み残しは今後の課題とします。解決困難な課題もありますが、渾身の力で当たっていき、難題を突破していく覚悟です。

土地改良施設の 突発事故への対応を

土居議員質問

本県の畑地かんがい施設は整備後、長い年月が経ち、老朽化が著しく進んでいる。そのため、パイプラインの破裂などの突発事故が多発。その数は、過去3カ年平均で年およそ100カ所。事故対応工事費は、平均40万円。ところが、これを支援する補助制度がない。足腰の強い園芸産地を維持・発展させるために、基幹水利施設の小規模な突発事故に迅速に対応できるように補助制度を創設してもらいたい。



12月20日に音無井路の大谷川第一水門が制御不能というので、月に一回の清掃点検作業に同行して確認。対応を考えます。

パイプラインの突発的な破裂が度々起こり、農作物に被害が発生した事例があることは承知している。こうした現実に迅速かつ機動的な対応をする必要がある。土地改良区の実態や他の事業との整合性等も勘案しながら検討していく。

保育の質の向上を

土居議員質問

保育の質の向上を図るには、優秀な保育士を確保することが重要。県では、特別な配慮を要する子への対応に関して、保護者や他の職員からの相談に応じたり、関係機関との橋渡しができたりするように保育コーディネーターを養成している。現場からは、この研修の継続を願う声が上がっている。県は、どうするつもりか。

また、保育士が研修等に参加しやすい環境をつくることも大事だ。保育所が保育士の負担を軽減するために、保育補助者の雇い上げ事業を実施してはどうか。

長谷尾福祉保健部長答弁

平成26年度から始めたこの研修は、これまでに375名を認定している。今年度の認定予定者を加えると約500名。県内保育所等の約7割の園に配置できる。より多くの園に保育コーディネーターを配置し、県内各地域の体制が充実するよう引き続き研修を実施し

精神科救急情報センター 「元化センター」

土居議員質問

県立病院敷地内に開設予定の精神医療センター。2020年完成に向け、建設工事は進むが、まだその施設機能の内容を検討しているものがある。それは、精神障がい者や家族等からの医療相談を受けるのは、民間の精神科病院等が輪番制で担当する「精神医療相談窓口」で、その窓口が緊急な医療が必要な人を判断して、県立の精神医療センターにある「精神科救急情報センター」につなぐと基本構想でしているところだ。

これではだめ。トリアージの質を担保する必要がある。ぜひとも一元化して。

長谷尾福祉保健部長答弁

本年4月に、より専門的な検討を行うため、民間及び公立病院の精神科医6名によるワーキンググループを立ち上げた。ここでは、ワキンググループで対応できる精神科救急情報センターを設置する方向で協議を進めている。患者が安心して受診できる体制を構築していきたい。

障がいのある人もない人も 心豊かに暮らせる大分県づくり 特別委員会が提言

大分県議会平成30年第4回定例会閉会日に、これまで2年間活動してきた障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる大分県づくり特別委員会が、知事をはじめ執行部に提言書を提出して解散しました。

この特別委員会は同条例施行後に、大分県の社会がどう変わったのかを検証する委



特別委員会が開会される度に傍聴されていた「誰もが安心して暮らせる大分県をつくる会」の皆さん。特別委員会は解散しましたが、引き続き活動していきます。

員会でした。調査を進めるうちに、障がい者差別の相談窓口の不備や、県教育委員会での障がい者雇用の実態が明らかになるなど、行政が改善しなければならぬことが多く出てきました。

県民も加わって策定した、障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる大分県づくり条例。でも、皆さんは、条例の文言をつくるのに汗をかいたわけではありません。条例によって社会が変わることに期待して汗を流したのです。

そのことを忘れずに、今後の議員活動をしていきます。

病院で死ぬのは もったいない

土居議員質問

平成29年も大分県の自宅での死亡率は8.22%で、全国最低。本来、病院は死ぬところではなく、治療を尽くして地域にかえすところだ。医療が高度化し、また延命治療も進むなかで、どういう最期を迎えるかは大きな問題である。アンケート調査と現実のギャップからわかる通り、本心では住み慣れた地域で最期を迎えたいと思っ

ている。本県はこの厳しい現状から目をそらすことなく、真剣に向き合い、対策を講じていくべきだ。

差出人： 在宅支援ネット
送信日時： 2018年12月5日水曜日23:00
宛先： 土居県議
件名： ありがとうございます

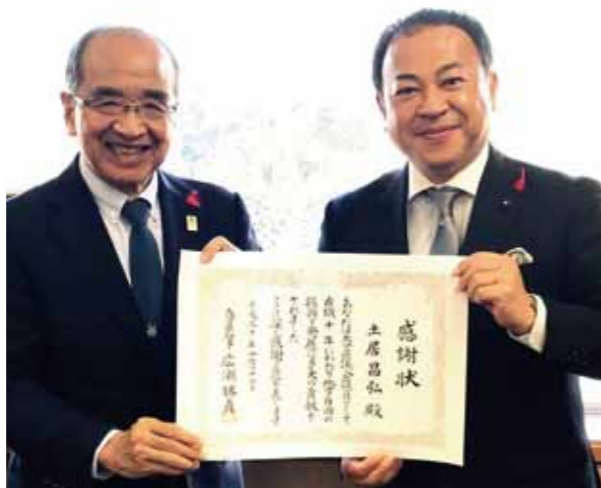
土居様
昨日もそして今日も、障がいのある人たちの気持ちを代弁する発言をしていただきありがとうございました。前会長、今日は、大分県精神保健福祉連合会から、事務局長、大分すみれ会（大分市の精神障がい家族会）会長の さんが傍聴に見えていました。皆さん、すばらしい質問だと喜んでおられました。さんは、東京の委託先のセンターに大分の精神科医療の実態をよく知っていただくことも必要だと話しておられました。大分市の家族会も、これから民生委員に働きかけるなど積極的な取り組みをしたいとのことで、今日の質問を心強く感じられたようです。

傍聴に来てくださった方からのメール。質問する土居議員の励みになります。ありがとうございます。

長谷尾福祉保健部長答弁

県が設置する医療・介護連携推進協議会等の意見も伺いながら、看護師等の人材育成や、多職種の連携促進、フォーラムによる普及啓発等に取り組んでいる。この結果、在宅医療実施機関は、この5年で12%増加し、347施設となった。

今後も医療・介護関係者や地域の方々の支え合いで、県民が住み慣れた地域で看取りまでできるような体制づくりに努めたい。



広瀬知事から県議会議員在職10年を迎えた土居議員を祝って、感謝状をいただきました。これもすべて、竹田市民のおかげさま。感謝の心を原動力にして邁進し続けます。



大分県の障がい者スポーツの祭典、大分県ゆうあいスポーツ大会。皆さん、力の限りを出して競い合います。しかし、その後は勝った人も負けた人も笑顔でお話。楽しいです。



密な連携で課題解決! 人脈を活かして思いを実現していきます

地域の願いを
叶えるため、
国とのネットワークを
活用しています。



岐阜県白川村に生まれ、福島県で育ち、福島高校を卒業された平沢勝栄衆議院議員。「地域を元気づけるのは、私の政治課題の一つ」と語り、地域おこしのお知恵を拝借しました。



「地域づくりの成功事例を集め、参考にすることが大事」と、大臣として地方創生に奔走された石破茂衆議院議員。具体的な事例を示しながら、ご指導いただきました。



4月に訪問した時には、地方創生について熱弁された安倍晋三総理大臣。7月に再訪した時には姫だるまを手渡し、竹田市の願いを伝達。「応援します」とエールをいただきました。



稲田朋美衆議院議員には、政務調査会会長時代からご指導をいただいています。「苦しんだからこそ、苦しみがわかる」と、福祉分野もご教示くださります。感謝します。



衛藤晟一参議院議員からのご紹介で、藤原誠文部科学事務次官に要望を伝えました。大分県の現状と改善点を提示して、事務方職員も一緒に議論。また、お願いします。



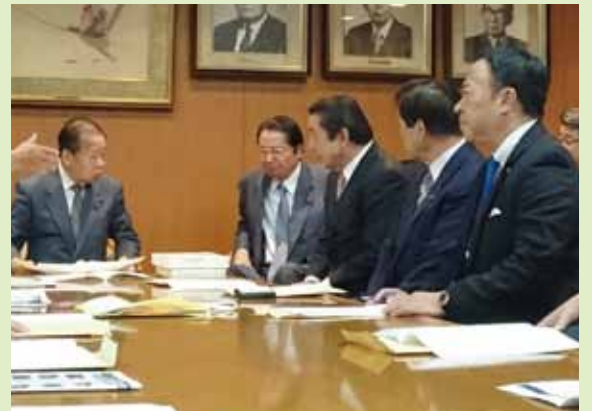
井上伸史大分県議会議長をはじめ、県議会自由民主党議員で鈴木俊彦厚生労働事務次官と協議。大分県福祉保健対策調査会会長として本県の諸問題を取りまとめ、要望しました。



自由民主党本部で開催された大分県フェア。災害からの復旧・復興を願い、山の幸、海の幸を販売。細田博之衆議院議員、山谷えり子参議院議員からも協力をいただきました。



太田房江参議院議員と自見はなこ参議院議員。女性の活躍と、保育と教育の話をし、日本の状況を変えていかなければならないとの共通認識に至りました。頑張ります。



オブザーバーとして衛藤征士郎衆議院議員も加わり、二階俊博自由民主党幹事長に大分県議会自民党県議団の要望を直談判。おかげさまで、防災事業が始まりました。



青山繁晴参議院議員は地方の活性化について、熱く持論を説かれます。確かに、地域コミュニティの再構築こそ、喫緊の課題かもしれません。人々がどこに向かって暮らすのが大事です。



京都府出身の西田昌司参議院議員も、過疎高齢化に頭を悩ましています。その課題に対応するため、どうすべきかを協議。ご指導いただきながら、大分県版も考察しました。



太田充財務省主計局長とは理財局長の頃も含めて、平成30年は4回も面談して要望を伝えました。どの事業でも、予算をどうするかは大きな問題。粘り強いいきます。